

久しくわかれていた弟と暮すことになる。弟は西野田職工学校に行っていた。叔父の家は餅屋で、しばらくその手伝いをする。  
 \* 郵便局にはいるため大阪中央局にいくと、通信講習所の受験をすすめられ、受験する。

指頭試験とメンタルテストで失敗するも学科は平均九三点で三番であった。

五月末 通信講習所入学。C組で松本繁一郎先生担任。森本重太郎、石井孝三、桐山栄一と交わる。

一一月 多武峰遠足

柳田(48歳)  
 自宅で民俗学に関する第一回談話会を開く。

四月 吉野遠足

五月 通信講習所卒業、高麗橋郵便局勤務。

七月 叔父の家をでて櫻宮に下宿。

一月にして釣鐘町二丁目の矢野方に移る。日給一円、部屋代一〇円、電燈代五〇銭、朝食一五銭、昼二〇銭、晩二〇銭。一日二食にして本を読む。七時間勉強、五時間睡眠を実行する。部屋代を節約のため友人由利範雄君と同宿する。

柳田(49歳)  
 朝日新聞社編集局顧問論説担当となる。慶応義塾大学文学部講師となり、昭和四年三月まで毎週一回史学科において民間伝承を講義する。

大正13(一九二四年)

24 営林局及び営林署を設置

24 文化鍋など「文化」という言葉のつく商品流行

大14  
 17歳

四月 高等文官を志し高等試験令七条試験を受験、二科目のみ合格。

夏 脚気を病む。

九月 専検を受験するも課目合格のみ。

\* 郊外の森河内に引っ越す。一戸建て、家賃二円、電燈代六〇銭、新聞一円

一一月 脚気悪化のため帰省。

一〇日くらい遊んで帰る。由利君腹膜炎に肺炎カタル併発し二二月二〇日すぎ丹波に帰る。

大正14(一九二五年)

25 25 治安維持法公布  
 普通選挙法

\* 「台湾米」の輸入増加

25 お茶の水、文化アパート(団地の発生)

25 床上立式台所普及(関東地方)

25 みつ豆普及

25 東京放送局、ラジオ放送を開始

25 マヨネーズ生産・発売

25 俄はごろごろ(歌)